帶びたる責任である事を思ひますと、實に氣の毒の感じに堪えられない事があります、前車の覆へるを見て後車の誡めとす、實にかゝる惡德は我儘增長の結果が多い事を目擊いたしまして、我子も我儘に陷らぬ樣注意するので御座います。』

春夏秋冬

みもすそ川も氷とけ
　高倉山もかすむなり
うちとの宮のへだてなく
　さかゆる春になりけり
古巢にこもる鶯の
　老ごえのみと思ひしに
青葉がくれにほとゝぎす
　なくはつ聲もきこゆなり
あきつ飛びかふ草の葉に
　秋のはつ風吹きそめて
入日のかげのてりながら
　ゆふべ涼しくなりにけり
しぐれしぐれの神無月
　おく霜つきもすぎにけり
しはすは雪の寒ければ
　うつみ火をのみ友として

○子供の望診

鹽野奇零

○人の體は病の器、　人の體は病の器である。鬼をもとりひしぐ英雄豪傑でも病氣といふ敵には勝てぬ。卽ち誰でも病氣にかゝらぬ者はない、そして凡べて敵を退治する最良の方法は敵の勢の揃はぬ所を不意擊ちするにある如く、この病といふ敵を退治するにも、病のさう募らぬうちに治療を加へるのが宜しい。どんな難病でも病氣の重らぬ中なれば癒らぬことは無いが、どんな輕い病でもいつまでも打棄て、置けば、生命にもかゝる程の大病となるかである。

○望診の必要、　かう云ふ理屈はわからぬものもあり、又解つて居ても面倒だと棄て、置くものもあるが、中には輕症の中はこれが病氣かどうかに氣のつかぬことが多いのがあらうと思ふ。然し、事の成るは成るの日にあらずして、重き病氣は一

時間や二時間に來るものでは無ければ、その病氣の發するまでにはその前兆を表はすに相異ない。然しまだ病氣だと氣がつかぬのだから勿論醫師を招ぶ筈もないのであるが、從つて醫師に見て貰ふといふことも無いのである。この時に當つて傍なる人が望診、卽ち一見してその人の樣子の違つたのを見別ることが出來たならば、その病を重らせない上に、どんなに功があるであらふ。

この事はわけて母たるものに必要である。子供の病氣は癒り易い代りに子供は病氣にかゝりやすいものである、又病氣にかゝつても進行が烈しいから、よほど用心して置かぬといかぬ。それ故、望診する力は是非ほしいものである。

○疲勞の望診、　望診といふても病氣によつて一々違ふ、それ故、母並に母となるべき人々は平生から注意し又醫師に聞いて病氣になりさうになつたら、すぐ用心する樣にしたい、そこで之から茲に子供の疲勞を望診する方法を說かう、一體疲勞はちよつとした器械を用ゆれば、すぐ解ることであるが、その器械は五歲以下の子供には用ゐられぬし、又、簡單ではあるが、誰にも使用することはむづかしいから、却つて望診の方が便利であらう。そして、疲勞は諸神經病の原因にもなるのであるから、之を說くのもあながち無用ではなからう。

一、目　まづ一ばん目につくのは目である、二重瞼になるとか、眼瞼がくぼむとか、遠見をするとか、瞳孔が開くとか此等は皆疲勞の徵候で、民間でも子供が二重瞼になると氣をつけよと云ふて居る、これは共に疲勞の前兆のみならず他の一切の病氣の前兆であるからである。

二、手　手といふものもよく疲勞を表はすものである、手に力の無いこと、手を擧げること、手を頭の後に當てることなどすべて手を下げないで上げたがるのは疲勞の一徵候である。

三、足　足も疲勞を表はすものである、貧乏ゆす

とりか椅子に腰をかけて居る時に、足を前方に延ばすとか、後方に曲げるとか、足を重なり合すとか、色々形を變へるのは疲勞した徵候である。

四、口　口が渴くこと、口を色々の形にすること、唇を舌端で舐めること、聲が太くなること、欠伸をすること睡眠中口を開いて居ること等

五、鼻　鼻が邪魔に感ずること、おり〳〵鼻をすることも亦一の徵候である。

六、尿　尿の色の濃くなること、これは明に疲勞の徵候の一である。

七、體　姿勢が惡くなり、ねたり起きたり、物によりかゝつたりいろ〳〵體を持餘すやうに見ゆるのも亦一の徵候である。

八、好　平生好きなものが一向注意を惹くに足らず、何を見せても何を聞かせても皆嫌ひ嫌ひとばかりいふて一とつもこれがよいと決斷せぬ、泣くかと思ふてもさう泣かぬが、然し默して居るのでもない、唯譯もなく鼻を鳴して居るのである、これは疲勞の一兆候である

以上八個の條件があれば必ず疲勞して居るのであるから、母たるものは氣をつけて休息させ睡眠させるやうにせねばならぬ、氣をまぎらせるために賑かな處などへ連れて行つては却つて子供のためにならぬのである。

松の操

月の桂も手折るべし
　ことばの花もかざすべし
つきの桂をたをるとも
　言葉の花をかざずとも
時雨にそまず降りつもる
　雪にたわまぬ常磐木の
松の操をまもらずば
　世に立つかひや無らまし

山家

垣根の川に魚をとり
　軒端の山に鳥あそぶ
浮べる雲はかへり見ず
　もとぬぬ富も餘りあり
峯にひらく花の眉
　岸には撫づる苔のひげ
つきせぬながめ山深く
　浮世のおもひ水あはし